



第2号 令和5年7月24日 登別小学校 教務部研修係

1学期 並行読書について

本校では、今年度も「並行読書」に積極的に取り組んでいます。

「並行読書」とは、教科書と関連させて、本や文章を読んだり、本だけでなく教科書などの文章を主体的に読ませる学習支援の一つです。

本校で行っている取組は、教科書の文章を読むのが苦手な子や、読書に親しんできた経験の少ない子にも、主体的に教科書とリンクした内容の本を読ませることにより、学習に前向きに取り組めるようにすることがねらいです。

今回は、1学期での取組状況の集計結果についてお知らせします。

「今年度の集計方法について」

本校では、「学力向上プラン」において、1学期の間に、国語の教科書「この本、読もう！」のコーナーに掲載されている本のうち、

低学年:8冊以上、中学年:6冊以上、高学年:4冊以上

の並行読書に取り組むことを目標として掲げてきました。

昨年度までの集計では、全学年とも、「学級人数で平均冊数を算出する」と、どの学級も上の数字を上回る結果でした。しかしながら、学習において「読むこと」の力に個人差が激しい現状があります。また、今年度児童アンケートの回答より、**家で読書をする時間が「0分」である子が15.6%(R4前半)、16.5%(R4後半)、そして今学期は21.4%と、どんどん増加しており、読書に親しむ子とそうでない子との二極化が大きくなっている**のではないかと考えました。

よって、今年は「一人あたりの読んだ冊数も算出する」という方法も集計の中に取り入れることとしました。

結果は以下の通りです。

R5	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
目標冊数	8	8	6	6	4	4
学年平均	11.7	34.0	14.8	11.3	1.3	7.9
目標冊数を超えた人数	17	26	15	15	1	12
目標冊数を超えた率	85%	96%	100%	65%	4%	86%

● 結果

○学年平均は、概ね目標冊数を超えている学年が多かったです。

●目標冊数を下回った学年もありました。

○目標冊数を超えた人数が学級の80%以上であった学年が多くありました。

●目標冊数を越えられなかった学年もありました。

● 考察

この結果より、目標冊数平均は、学年の平均値で見るとほぼすべての学年で超えているものの、やはり学年や学級内での差が大きいことがわかりました。

また、児童へのアンケートより、「**並行読書をした冊数を尋ねる項目**」に対し、「**0**」との回答も少なくないという課題が浮き彫りとなりました。たくさん読めている子は、どんどん多くの本に親しんでほしいですが、まずは「あまり読めていない」「全く読んでいない」という子を減らしていくことを目標にしていきます。**週2回取り組んでいる朝読書の時間に、現在行っている単元の学習に関わる並行読書の本を手にとって読むこと**を子どもたちに勧めていくことが十分に行われるようにしていきます。

並行読書に限らず、読書は大切。～「心を豊かにする」読書～

児童が自ら、進んで興味のある本を手に取り、学んでいく。「もっと知りたい!」「もっと読んでみたい。」「他の作品も気になる。」児童一人一人の「もっと～したい」という気持ちが生み出され、主体的に学んでいく。そんな姿を実現したいと考えています。読書は、学習ができるようになる他に、**語彙力や想像力を広げていく働き**もあります。**文章構成や助詞・接続詞などの文法や、詩の技法なども、読書を習慣化することで自然と身に付けていくことができます。本の世界で起こる出来事の追体験によって、その状況や感情を想像し、人の気持ちに寄り添うことができるようになる**、ということもあります。色々な人と共に生きていくためには、他者を思う想像力が必要であり、そのためにも、**生活の中に読書の習慣を位置付けていくことはとても重要である**と考えます。

先程も述べましたが、今年度の児童アンケート結果より、「家で読書をしている時間」についての項目で、「0分」という回答も一定数います。

明日より長期休みにも入りますので、ぜひ時間のとれそうなときには、お子さんの実態に合わせて、読書に親しむ時間・機会を設けてくださると幸いです。**読書の習慣付けは、一朝一夕でできるものではありません。**学校の取組だけに頼ることなく、ご家庭でも、読書習慣の定着のため、お力添えをお願い致します。学校で借りた本をゆっくり読んでみたり、市立図書館・こぐま号で気になる本を探してみたり…。夏休みには図書室開放(8月8日火)もありますので、気軽にご活用していただければと思います。

今回の結果より、本校でも、子どもたちがより読書に親しむことができますよう、来学期からも工夫を凝らしていきたいと思っています。**学校とご家庭との協力**によって子どもたちの力を伸ばしていきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。